

## 縁側は

松岡隆子

青蘆の胸を押しくる風の丈  
潜みたるものの息濃き青葉闇  
羊蹄の焦げたる丈を憚らず  
えごの実のさみどりの揺れ旅遠し  
睡蓮の白さよ遠き日の白さ  
ずいぶんと歩いてきたる夏野かな  
昼顔へ予定なき日の歩を返す

昼顔へ屈託の身を漂はす  
遠ざかる日傘よ還るはずもなく  
縁側は人思ふ杳さ走馬灯  
考ふる貌昏れやすき繭の花  
黙考のため息水中花赤し

七月も半ばとなった。九州や中部地方など日本各地に降った記録的な豪雨は各地に甚大な被害をもたらした。その後も降り続く雨に被害が拡大しないようにと祈るばかりだ。被災された皆様に心からのお見舞いを申し上げます。

七月こそは本部例会を開きたいと思っていたが、東京の感染者の激増にやむなく断念した。昨先生の三回忌に計画していた九月の追善吟行会も急遽中止することにした。暫く大勢で集まるのは難しそうだが、九月が駄目なら十月こそと先に希望をつないで進んでいきたい。青蘆の風や明日も明後日も 隆子。